

奥羽大学報



▲奥羽祭

目次

奥羽祭／平成19年度入学試験日程	2
オープンキャンパス／保護者懇談会／公開講座／平成18年度卒業証書・学位記授与式日程変更／平成19年度科学研究費補助金申請状況	3
「歯学部教員評価」の実施／平成18年度歯科医学教育者特別講演会	4
歯学部学内LAN整備／(薬)キャリアガイダンス／(薬)企業採用担当者との懇談会	5
学友会活動記録／大学院入試／大学院特別セミナー	6
附属病院	7
私が薦める一冊の本	8
歯科基礎医学会賞(生化学部門)受賞／国際歯科研究学会日本部会学術奨励賞受賞	9
第42回奥羽大学歯学会／奥羽大学文学会第50回発表会	10
国際学会	11
余滴	12
同窓会	13
同窓生のひろば	14
人事／慶弔	15
行事予定	16
平成18年度後期定期試験日程(歯・文・薬)	別紙

110

奥羽祭

第14回奥羽祭は10月13日(金)から3日間に亘り開催された。初めは「本当に自分たちの手で奥羽祭が創れるのだろうか」と、不安と焦りばかりがつのり、それぞれの意識がばらばらであった。しかし、奥羽祭本番が近づくとつれて皆の意識がまとまるのがわかり、頭の中でしか描けなかった奥羽祭が目に見える形となって現れてきた。

様々な問題が浮上する度になんとかそれを乗り越え、大学祭当日を迎えることができたのは、まわりの皆の協力があったからこそだと思う。2、3日目はほとんどが新しい企画で、進行具合が心配だったが、互いに励ましあい無事に終えることができた。

大学祭終了後、安心感や達成感から皆の目には涙が浮かんでいた。この時、学生会で活

動してきて本当によかったと思った。他では絶対に得られないものを得られたと思う。この大学祭を通して皆が大きく成長でき、絆も深まった。今まで協力してくれた多くの方々に深く感謝したい。

(実行委員長 佐々木 幸広 薬2年)



平成19年度入学試験日程

学部		歯学部			薬学部		
区分		出願期間	試験日	合格発表	出願期間	試験日	合格発表
一般選抜入学	一期試験	1/9(火) ~2/5(月)	2/7(水)	2/8(木)	1/9(火) ~2/1(木)	2/5(月)	2/7(水)
	二期試験	2/13(火) ~2/28(水)	3/2(金)	3/3(土)	2/19(月) ~3/2(金)	3/6(火)	3/8(木)

オープンキャンパス

平成18年度3回目のオープンキャンパスは奥羽祭と同じ10月15日(日)に開催した。参加数は歯学部6名、薬学部12名、両学部2名の合計20名で、受験を目前に控えた3年生が多く、例年数名が本学へ入学している。今回の参加者の中からも「第一志望は奥羽大です」という声が聞かれた。このような参加者の存在は大学としても喜ばしいことであり、これからもこういった参加者が多数訪れてくれることを期待したい。

保護者懇談会

歯学部と文学部で、今年度2回目となる保護者懇談会が、10月14日(土)に開催された。当日は天候にも恵まれ、230名ほどの保護者の参加があった。内容が成績や出欠に関する懇談とあって、どの保護者も和やかな中にも真剣な表情で担当教員との面談に臨んでいた。



公開講座

平成18年度の公開講座が10月14日(土)の講座をもって終了した。今年度は「高齢社会を健康に過ごすために」をメインテーマとして、全8講座が開講された。1回目44名、2回目36名、3回目35名、4回目46名、計161名の受講者があり、熱心に講師の話聞く姿が印象的であった。

平成18年度卒業証書・学位記授与式日程変更

今年度の卒業証書・学位記授与式は、当初3月10日(土)に予定されていましたが、歯学部4年生が参加する共用試験等を考慮し、3月9日(金)に変更しました。例年同じ時期に開催される、父兄会等の会合も同様に日程変更となります。

平成19年度科学研究費補助金申請状況

科学研究費補助金とは、あらゆる学術研究の発展を目的とする独創的・先駆的な研究に対する助成金である。今回、文部科学省・日本学術振興会より平成19年度の公募があり、本学から102件の新規申請を行った。申請の内訳は、下記の通りである。昨年に比べ、17件多い申請数となった。

採択結果の発表は来年4月以降となるが、本学の教育に役立つ研究が数多く採択されることを期待する。

研究種目	目的・内容	助成額	H16 応募数	H17 応募数	H18 応募数	H19 応募数
基盤研究(A)	一人または共同で行う独創的・先駆的研究	2千万～5千万			1	1
基盤研究(B)		5百万～2千万	5	5	3	3
基盤研究(C)		5百万以下	20	27	36	38
萌芽研究	独創的発想、特に意外性のある着想に基づく萌芽期の研究	5百万以下	3	2	6	11
若手研究(A)	37歳以下、一人で行う研究	5百万～3千万	3			
若手研究(B)		5百万以下	28	36	39	49
合計			59	70	85	102

「歯学部教員評価」の実施

2004年度より学校教育法に「第三者評価制度」が規定され、文部科学大臣が認める認証機関による7年に一度の評価が各大学に義務づけられました。このような国による評価はさておいても、大学には「社会」の評価を受けて、教育・研究ばかりでなく、学生へのサービスの質を高めてゆく責任があります。本学部においても、そのような視点から昨年度より「教員の業績に対する自己点検・評価」が実施されることとなりました。昨年度は、教員の「教育・研究・診療」に対する評価を実施し、教員個人にその結果を配布しフィードバックをしたが、公表するまでの余裕はありませんでした。本年度はこうした反省に基づき、「教育・研究・診療」に加えて、「社会貢献・大学の運営活動」についても現在調査中で、歯学部部門評価委員会において最終的にこれら5領域の評価を行い、各教員にフィードバックするだけでなく、「評価に対する異議申し立て」を受け付け、さらに本年度中に報告書を作成して公表する予定です。

また、今後のために半ば普遍的な「教員業績の実施基準」や「実施要項」を作成中で、周期的にこの調査が速やかに実施できるよう考えています。そうはいつでも一方で、教員各自の不断の協力と、大学教員としての自覚が不可欠で、それらが一体となつてこそ、それらの結果が「授業方法の改善やカリキュラムの改正」、あるいは「施設・設備の整備」にも役立つものと信じています。

(丸井 隆之)

平成18年度

歯科医学教育者特別講演会

10月5日(木)17時より第2講義棟の第1講義室において「共用試験の理念と概要について」の特別講演会が開催された。講師には医療系大学間共用試験実施評価機構の副理事長である江藤一洋先生(東京医科歯科大学教授)と理事の小口春久先生(日本歯科大学客員教授)、理事の俣木志朗先生(東京医科歯科大学教授)、理事の荒木孝二先生(東京医科歯科大学教授)および機構の総務部長である鳥谷一芳氏の5名をお招きして、本学の全教員を対象に講演をして頂いた。

江藤先生からは共用試験の理念とこれまでの経緯について、また小口先生と荒木先生からは歯学系 CBT の概要について、また俣木先生からは歯学系 OSCE の概要について、さらに鳥谷氏からは機構の組織についてのご講演を頂いた。共用試験についての講演会は今回が初めてであり、講師の先生方の話を拝聴し、将来本学が共用試験実施評価機構に加入するための心構えについて、全教員が改めて認識したものと思っている。今後、全学を挙げて取り組む必要があることを痛感した講演会であった。

(鎌田 政善)



江藤一洋教授

歯学部学内 LAN 整備

本学の学内 LAN につきましては、文学部、薬学部部分の整備はすでに完了していましたが、今年度さらに、全学的なネットワーク環境を完備することを目的として、既設の基幹 LAN 回線を歯学部にも延伸・統合し、同時に歯学部内の支線を敷設しました。

この全学的なネットワークが構築されることにより、図書オンライン閲覧目録検索、各種資料の請求といった学内の基礎学術資料の効率的活用をはじめ、学内ネットワークを通じた幅広い意味での情報交換が可能になります。また、研究分野では、歯学部・薬学部・文学部間での学術データの有機的な共有を図ることができるようになり、各研究室間においてもこれまで以上に情報のデータベース化が促進されることが期待できます。さらに、教育分野においては、本学にとってとりわけ重要となる CBT、WBT (Web Based Training) による医療系教育の実施や、既に部分的に導入している教育支援システムの全学的・発展的活用が可能になります。

(鈴木 陽典)

(薬) キャリアガイダンス

薬学部1年生

10月20日(金)薬学部1年生を対象に薬学部キャリアガイダンスが行われた。

岩木講師から薬剤師国家試験について、実際の事例をあげ具体的な内容の説明が行われた。



薬学部2年生

11月6日(金)薬学部2年生を対象に太田総合病院附属太田熱海病院・薬剤部長の畑講師から「病院薬剤師の現状について」と題して具体的な病院薬剤師の仕事について、実際の現場の状況を交えて重みのある話があった。押尾教授からは「大学院進学について」具体的な説明があった。

最後に文化放送キャリアパートナーズ学生支援部、中澤講師より「就職活動の進め方」について、就職するという意味から今何ができるのかまで、今後の活動に備えたアドバイスがあった。



(薬) 企業採用担当者との懇談会

11月10日(金)採用担当者との懇談会が第2講義棟第1講義室で開催された。

企業52社、82名が参加し、全体会にて清水秋雄学長、永井正博薬学部長、廣井邦雄学生部長の挨拶があり、続いて企業側代表大日本住友製薬株式会社・山田慎二氏、あさい調剤薬局・浅井則子氏から挨拶を頂いた。続いてメモリーにて教職員との懇談会が行われた。



学友会活動記録

○ゴルフ部

関東歯科学学生ゴルフ対抗戦

10月20日(金)～21日(土)

喜連川カントリークラブ

男子個人：準優勝 福田 敬洋
3位 正木 孝平

男子団体：準優勝

女子団体：3位

○バドミントン部

東北歯科バドミントン選手権

10月28日(土)～29日(日)

東北大学星陵体育館

男子団体：3位

○アーチェリー部

チェリーカップ

9月30日(土)～10月1日(日)

三春町貝山地区多目的運動広場

男子50・30m ラウンド 3位 白田 真浩

女子 〃 1位 安部奈緒美

女子30・30m ラウンド 2位 阿部 直子

女子 〃 3位 藤平 真弓

○フットサル

牛角杯

10月8日(日)

フットサルサイト郡山

優勝・準優勝

エンジョイカップ

11月12日(日)

泉フットサルパーク

優勝

大学院入試

大学院歯学研究科は、平成19年度入試より社会人特別選抜による学生募集を行っている。社会人学生の講義受講・研究を可能にするため、カリキュラムは通常的时间帯に加え、夜間の授業開講、土・日曜日や夏季休暇を利用しての集中講義などを予定している。10月21日(土)に行われた第Ⅱ期入学試験には、社

会人から2名の応募があり、合格となっている。

第Ⅲ期入学試験は2月24日(土)に予定されており、多くの社会人からの出願が望まれる。

大学院特別セミナー

大学院特別セミナーが下記のとおり開催された。

10月3日(火)

東北大学大学院 山本隆教授

「ヒトの脳における味覚と食物の認知
－脳機能イメージング法による解析－」

10月10日(火)

オハイオ州立大学 S. ガンツベルク教授

「オハイオ州立大学歯学部における
日帰り全身麻酔の臨床と研究」

10月18日(水)

東京女子医科大学医学部 内山竹彦教授

「細菌性スーパー抗原による
T細胞活性化と疾患」

10月19日(木)

東京医科歯科大学大学院 三浦宏之教授

「メタルフリーブリッジの臨床応用」

10月31日(火)

東北大学大学院 高田春比古教授

「口腔粘膜の自然免疫系」



S. ガンツベルク教授

附属病院

社会保険歯科集団指導

9月26日(火)16時より病院棟5階臨床講義室において、平成18年度社会保険歯科集団指導が開催されました。平成17年度新規登録歯科医師および平成18年度臨床研修歯科医師を含めた歯科医師166名、医療職・事務職員35名の201名が出席し、講師として福島社会保険事務局の向井指導医療官が、2時間にわたって保険診療および保険請求の取り扱いについて指導されました。

4月からの保険改正により、患者に対する指導等の書類が増え、歯科保険に関して厳しい状況となっていることが指導医療官から説明され、出席者一同、より熱心に聞き入る内容でした。また、歯科集団指導後には「公的年金」について説明があり、少子化が進みつつある現在、将来のためにも未払いはしないよう要請がなされました。

診療終了後に開催されたにもかかわらず、本院の多数の関係者が出席し、活発な質疑応答があり、予定をやや超過しての終了となりました。

(佐藤 穩子)

第2回医療安全推進研修会

11月8日(水)、病院棟5階臨床講義室において平成18年度第2回医療安全推進研修会が開催された。講師に横浜市緑区歯科医師会理事で、みほ歯科医院院長の中島丘先生をお招き



し、歯科医院が取り組む医療安全と題して、針刺し事故への対応、歯科診療での偶発症、身近に起きた医療訴訟などについて講演がなされた。実際にあった事例を挙げての講演で、出席者一同、医療安全の重要性をあらためて認識することができた。

本院の医療安全の枠組みは、委員会開催、マニュアルの整備、講習会開催などでほぼ完成の域にある。しかし、一人一人の医療関係者の現場での医療安全はさらに推進しなければならない。これを機に各人が医療安全に対する取り組みを再度検証し、安全に医療が提供できるよう努めてほしい。

(竹内 操)

平成18年度病院立入検査

平成18年度病院立入検査が、11月15日(水)本学附属病院において郡山市保健所から阿部所長ほか7名の検査員が来院し実施された。これは医療法第25条第1項の規定に基づき毎年実施されており、本院では清野病院長ほか15名の担当者が対応した。

立入検査は、安全管理のための体制の確保・院内感染防止対策・医療機関における事件等に関連する事項に重点がおかれ、さらに看護管理・給食、薬事・放射線管理、医療従事者の確保、職員の健康管理、委託業務・廃棄物管理等細部にわたり検査が実施され、最後に講評があり終了した。

小学校歯科衛生指導事業への協力

本年9月から10月にかけて歯学部附属病院は、白河市教育委員会の依頼により、白河市立小学校歯科衛生指導事業の実施に協力しました。

この事業には歯学部附属病院の歯科衛生士と歯学部口腔衛生学講座の歯科医師が携わりました。

参加した児童は、歯垢染め出し液で赤くなった自分の歯を鏡で見て、どの部分が汚れているかを自ら確認しながら丁寧にブラッシングをしていました。

白河市内9校の小学1・2年生、延べ610名の児童は、楽しみながら「歯の大切さ」を学ぶことができました。

(廣瀬 公治)



私が薦める一冊の本

『壊れる日本人』

～ケータイ・ネット依存症への告別』

(柳田邦男著 新潮社 2005. 3)

連日いじめの問題が報道されている。人間の絆が壊れていくのを見るようで、悲しい思いになる。for others (他人のために) というテーゼはどこへ行つたのだろうか。

いじめは昔からあった。子ども同士だけではない。社会や職場や家族同士のいじめもある。しかしいまのは何かが違う。背景に何かあるのだろうか。

同級生をののしる言葉。「下品な愚民や」、「ウゼークラスだ」、「喧嘩売って買ったらごめんとか言って謝るヘタレや」、「高慢でジコマンなデブスや」。これは2004年に起きた佐世保市の小六女児同級生殺害事件の女児のホームページ。記憶に新しい。今日の子どもの心の病につながる象徴的な出来事だった。「ネット世代の闇」といってよいのだろうか。

本書の著者は「21世紀の負の遺産がすでに見え隠れしている。IT革命の影の部分だ」として、「感情をコントロールする自制心や判断力、創造力などのつながる思考力が発達しない」という。

ケータイ・ネットの利便性はいくつをまたな

い。しかし負の面も確かにある。匿名で別人格になれる。自己中心的な性格になりやすい。「コノヤロウ」、「ぶっ殺してやる」と口で言えないことも無機質になって発信できる。「効率主義に支配された現代社会の根深い病理の最も日常的で象徴的な現象」であるとも著者はいう。

子どもだけではない。子どもの心を読めない教師、患者の顔を見ない医師、ついていけない大人たち。

こうした時代だからこそ「あいまい文化」を蘇生させようというのが著者の主張である。グレーゾーンを許容することだ。続けていう。「西洋近代の科学主義、合理主義、効率主義が様々なひずみをもたらしている。そこにはイエスカノーかを迫る一神教的な思考構造がある」。つまり一人ひとりの生き方に法則はない。「割り切れない思い」をどうすくあげていくのかという問題提起だ。

著者のいう「あいまい文化」はいい加減という意味ではない。人の心をえぐるようなイエスカノーかを迫る思考法からぬけて、よくわからないところがあっても、それを含めた全体をありのままに大事にする、という意味である。

人は違いがあつてこそ人なのだ。この違いを大事にするという認識こそ、人の傷みを思いやることにつながる。「あいまい」、「割り切れない思い」こそ人間にとって最大の栄養になるはずだ。文学、芸術、宗教などの分野がその支えになっていることには注目したい。

この書の難をいえば、ケータイ・ネットづけの若者への批判にはうなずけないところがある。アナクロニズムの感がないでもない。が、人間の絆をとりもどす処方箋のひとつとして、考えさせられた書である。多くの人々にお薦めしたい。

(安藤 勝)

歯科基礎医学会賞（生化学部門）受賞

第48回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会（会期平成18年9月21日(木)～23日(土)、会場 鶴見大学）は、鶴見大学歯学部を担当で開催された。歯学部口腔生化学の松沼礼子助手は歯科基礎医学会賞（生化学部門）を受賞の栄誉に与った。受賞対象論文は「Leptin corrects increased gene expression of renal 25-hydroxyvitamin D₃-1 α -hydroxylase and 24-hydroxylase in leptin-deficient, *ob/ob* mice.」で、本論文は2004年3月号の *Endocrinology* に掲載された。この研究は、最近注目されている肥満遺伝子産物のレプチンが骨代謝にも影響を及ぼしていることを明らかにしたものである。先天的にレプチン遺伝子に欠陥を有し、正常なレプチンを合成できない肥満マウス (*ob/ob* マウス) は、骨密度が低下し、高カルシウム血症になる。その原因を究明したところ、腎臓に存在する活性型ビタミンD合成酵素の1-水酸化酵素の遺伝子発現が上昇し、活性型ビタミンDである1,25(OH)₂D₃の合成が著しく亢進していることを、世界で初めて発見した。*ob/ob* マウスにレプチンを投与すると、血液中の1,25(OH)₂D₃のレベルが正常化し、腎の1-水酸化酵素遺伝子発現も正常の水準に戻った。本研究により、肥満遺伝子産物レプチンがカロリー摂取を調節しているだけでなく、骨代謝、さらにビタミンD代謝にも深く関与していることが明らかとなった。今後、骨代謝と肥満との関係についての研究が発展していくと考えられる。

歯科基礎医学会賞は優れた研究を行った若手研究者に授与される、歯科基礎医学会として最も伝統のある賞である。9月23日(土)に多くの聴衆を前に受賞講演が行われ、座長の安孫子宣光教授（日本大学松戸歯学部）より、本研究が歯科基礎研究として極めて優れたものであり、これを励みに今後なお一層のすぐれた研究を行って歯科基礎医学会の発展のために寄与してくれることを期待している、との祝福と激励の言葉をいただいた。

松沼礼子先生の受賞は、口腔生化学の明野ながこ先生、川根徹也先生について3人目であり、本学において国際的な生命科学の研究が着実に進展していることが証明された。

今後、より一層質の高い研究成果が生まれるであろう。

（堀内 登）



国際歯科研究学会日本部会 学術奨励賞受賞

国際歯科研究学会（IADR）は、歯科医学に関する世界で最も大規模で権威ある学会です。その日本支部である日本部会（JADR）では、優れた研究に対して学術奨励賞を授与しています。

2006年度の学術奨励賞受賞者に玉井利代子講師（歯学部口腔病態解析制御学講座口腔細菌学）が選ばれました。受賞した研究は、歯周病細菌である *Porphyromonas gingivalis* の口腔上皮細胞への侵入メカニズムを分子レベルで解明したものです。*Porphyromonas gingivalis* がどのように口腔上皮細胞の中へ侵入していくかは、歯周病が起こるメカニズムを考える上でとても重要なことです。玉井講師の研究で、上皮細胞の産生する ICAM-1 と caveolin-1 というタンパク質を利用して細菌が細胞の中へ侵入することが明らかにされました。この実験は、今年のノーベル医学生理学賞を受賞した「RNA 干渉法」という最新の実験テクニックを駆使しておこなわれたものです。さらに今回の研究成果は、米国微生物学会が発行する国際的学術雑誌である

「Infection and Immunity」誌に掲載されました。

玉井講師はこれまでも優れた論文を国際的な権威ある学術雑誌に多数発表し、科学研究費補助金も連続して獲得するなど若手歯学研究者のトップランナーの一人です。今後も素晴らしい研究成果を出して、本学の発展に寄与してくれるものと思います。

(清浦 有祐)



第42回奥羽大学歯学会

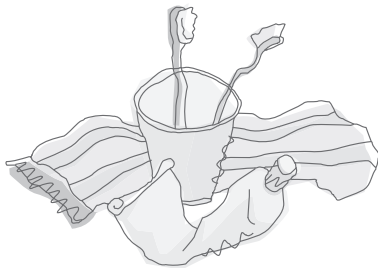
標記学会が11月4日(土)に本学第2講義棟にて開催された。午前9時25分より天野義和会長の挨拶で始まり、一般口演17題、国際学会参加報告3題の発表が行われた。発表内容は学位に関する口演9題、臨床報告6題、教育に関するもの2題で、終了予定時刻を超過する活発な質疑応答が行われた。特別講演には、講師として国立大学法人福島大学学長の今野順夫先生をお招きし、「男女共同参画と少子化対策」のタイトルで約100名の聴講者のもと2時間の講演が行われた。講演では雇用の場における男女平等と法制、女性就業と出生率・企業競争力の関係を自らの経験談を交えて概説された。今後の課題として男女ともに働きやすい職場環境を構築していくこと、雇用の場での男女平等を実現させる方略、少子化解消の条件等が挙げられた。少子化について広い視野から問題点を提議されたことで、生命を尊び、豊かで安心して暮らすことのできる社会の実現に対し、我々に課せられている目前の課題を認識させていただく貴重な講演であった。

(福井 和徳)

奥羽大学文学会第50回発表会

さる11月9日(木)、本年度3回目の文学会発表会が5号館537教室で行われた。発表者は共通教科の安藤勝教授(司書課程担当、図書館長)、演題は「書誌作成の実際-『英米文学研究文献要覧』の場合-」。発表では、安藤教授のライフワークである『英米文学研究文献要覧』作成の過程の苦労話を交えてつぶさに語られた。こうした地道で気が遠くなるような作業が日本の英米文学研究者の仕事を陰で支えている。我々が日頃何気なく利用している図書館には、安藤教授の言う「時代を写す鏡」としての書誌の世界が広がっていることを改めて実感した次第である。

(佐藤 富晴)



国際学会

第10回国際精子シンポジウム
(10th International Symposium on
Spermatology Spermadrid 2006)

9月17日(日)から21日(木)まで、スペイン、マドリッド市郊外で開催された第10回国際精子シンポジウムに出席してきました。本学会は4年に一度開催され、今回の出席者は300名程で我が国からも約30名が出席していました。

私は共同演者として、ディーゼル排ガス曝露の雄性生殖系に及ぼす影響に関する二つ演題の発表をしました。無脊椎動物精子からヒト精子(不妊治療)に至るまで幅広い分野の研究発表があり、それらの中で、我々の発表には予想より多くの質問者が訪れ(主催者側の指名による50人ほどの講演者を除いて、128演題全てがポスター発表でした)、意見交換が出来ました。

本学会は全員が同じ宿舎に泊るスタイルです。朝食後、8時半から講演が始まり、昼食は13時30分から15時までワインとともに、午後のセッションは15時から18時半までが講演、18時半から20時までがポスターセッション、20時半からが夕食でその後のパーティタイムを入れると毎日午前様の状態でしたが、旧知の研究者や若い研究者とも交流が出来、大変有意義な5日間を過ごすことが出来ました。帰国後、スペイン通の方に聞いた話では、“一般的な会議では昼寝の時間が入るはずだが、午後のセッションがあるのは、やはり、国際標準の会議である”と、妙なところで感心されました。なお、次回の本会議は、我が国での開催が決まりました。その時には、私も奥羽大学での研究を発表出来るように、これから研究に励む所存です。

(押尾 茂)

第3回国際漢方医薬学教育シンポジウム
(The 3rd International Symposium on
Education of Traditional Chinese Medicine)

11月9日(木)、10日(金)の2日間、中国の広州で開催された第3回国際漢方医薬学教育シンポジウムにおいて、招待講演者として、研究成果について講演する機会をいただきました。このシンポジウムは、広州中医薬大学の主催で毎年行われ、参加者の殆どは中国国内からですが、漢方薬に関する研究や教育に携わっている研究者が世界中から集まり、研究成果の発表や討論を通して、交流を深めることを主目的としています。今回は500名ほどが参加し、広州HNAセントラルホテルの国際カンファレンスホールを丸々借り切って行われました。招待講演者は20名ほどで、中国を始めとして、アメリカやカナダ、オーストラリア、韓国等、世界各地から研究者が招待され、漢方薬を用いた最新の病気の治療法や健康管理法、マラリアなどの病原微生物に対する漢方薬の効果、各国の漢方教育の現状等について講演がありました。日本からの講演者は私だけで、「漢方薬によるポリオワクチンウイルスの遺伝子変異の抑制効果」と題して講演を行い、多くの研究者と交流をはかることができました。

広州は、中国の南部最大の都市で、広東省の省都でもあります。「食は広州に在り」と言われるように、豊かな食材を有した食の都としても知られています。街は人混みと活気に溢れ、車の大渋滞や、建設中の高層ビル群をあちこちで見かけました。凄まじい勢いで経済発展を遂げている中国のエネルギーを、直接肌で感じとれるような街でした。

(堀江 均)

余滴

高校での〈必修科目未履修問題〉が発覚したのは、拙稿「論理的な文章（説明文）を書く指導のために」（平19. 1「月刊国語教育」掲載予定）を脱稿してまもないときであった。学校現場の苦慮の末だったのだろうが、岩手県立高校の「指導要領に弾力的に運用していいと書いてあった」（10/27「福島民報」）から実施したとの発言にはどう表現すべきか正直迷った。

「朝日新聞」（7/15）に「論理的な思考「苦手」との記事が掲載された。これは国立教育政策研究所調査結果報告に関する記事で、現今の小中学生は「論理的な文章が書けない」という。一概には言えないが、この種の文章が書けないのは高校生も大学生も同じである。〈書けない理由〉はどこにあるのか。それは〈授業で論理的な文章を書いていないので書けない〉ということである。つまり、〈論理的な文章〉が書けないのは授業等で書いていないから〈書けない〉のだと。それではなぜ〈書かない〉のか、その理由にはまず「学習指導要領」で「文章を書くことを主とする指導」単位時間の削減が指摘される。小学校の場合だと「昭和52年告示学習指導要領」では「国語科の総授業数のうち10分の3程度」あった時間数が「平成元年告示」ではさらに削減され、現行の要領では「第1学年及び第2学年では年間90単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度」とされている。しかし、これら単位時間を仮に〈作文〉に充てたとしても、内容はいわゆる〈生活作文〉がほとんどで〈調べて書く作文〉、すなわち〈説明文〉〈論理的な文章〉を書く指導には充てられていない。ましてや、中学校になるとこの傾向はさらに著しい。高校には、かつて選択科目に「国語表現」があったがあまり履修されなかった。現行では必修科目に「国語表現Ⅰ」が設定されているものの、「国語総合」かどちらか一方を選択にすればいいのでほとんどの高校では後者を履修

している。たとえ前者を履修しても「2単位」科目なので〈論理的な文章〉を書くまでには至らない。結局、この種の文章を書くとすれば小学校以外にはないといえる。そこでは、たとえば教科書教材の〈説明文〉を単なる〈読解教材〉とのみ扱うのではなく、指導者の裁量で〈説明文を書くために読む〉授業の展開が考えられる。教材である説明文の内容理解はいうまでもなく、説明文の構成・調べるといふこと・相手にわからせることなどを学び、各自に説明文を書かせるのである。

指導要領を「弾力的に運用していい」とは、必修科目を履修しなくてもいいということではない。「要領」に設定されている単位時間数をどう裁量して、学習者に最大の効果をあげるかが問われているのであって、それは指導者のこの上ないくろみの結果の運用なのである。

（田村 嘉勝）



同窓会

茨城県同窓会

会長に就任し、2期（5年）目に突入し、同窓会の方向性・意義等について考えさせられております。

小生が茨城県同窓会に入会した時は、理由はどうあれ、歯科医師会と同窓会に対する考え方は、ほぼ同等と受け止めておられた方々が多かったと感じました。

約20年の月日が過ぎ組織を任された今、維持する事の難しさと能力の足りなさを痛感させられています。

愚痴っぽくなってしまいましたが、時流にマッチした同窓会のあり方を模索しながら、今年も110名一丸となって頑張っています。

今年の年間行事は、

4月…総会・懇親会

5月…三大学ゴルフコンペ

（東京歯大、松本歯大）

7月…三大学保険講習会・懇親会

8月…家族納涼会

12月…学術講演会・忘年会

等があります。

マンネリを打破する為に、来年は年度初めから茨城県から100キロメートル離れた東京の隅田川の船に乗り、桜の花を愛でたり、江戸前の“食”を肴に平成19年度の同窓会をスタートしようと執行部一同今から考えております。

“起・承・転・結”で人生を区切って語る場合、同窓生は、“転から結”に向かって進んでいる人達が増加しています。

創立25年経てば、新設校という言葉が外され、新しい言葉がつけられます。

願わくば、素晴らしい言葉をつけて頂きたいと思います。

ところが、学生達の「母校に対する意識」や「卒業」に対する考え方が、昔と比べ全く違うように感じます。

奥羽大学歯学部の前身である東北歯科大学を卒業した先生方は、“学校・教授・学生”

が三位一体となって母校を育てようとしていた姿に「この大学に入学出来て良かった。」と感じ、学生時代を謳歌できたのではないのでしょうか？だから卒業してからも、大学のために恩返しをしているのではないですか？

年に1・2回母校を訪問し、国家試験を控えている学生と接する度に、人間関係に戸惑っている姿にやるせなさを感じて仕方がありません。「学生達は卒業資格だけを目標に、6年間勉強している。」とか、「国家試験合格は塾で学んで取得しよう。」という学生が多くなっている。という話を見聞きしていると「学校の存在意義は何なのだ。」と、憤りをぶつけたくくなります。

昔と違い、国家試験が厳しくなっている事は十分に知っているつもりです。

“絆”とか“縁”とかが細くなって来た今ですが、同窓会としては、大学と学生の為にフォローできる事が山ほどあると思います。

小生、古い人間です。

大学運営の代表者である影山理事長はじめ教授陣の代表である清水学長を両輪として、我が母校奥羽大学を、在学生、卒業生の皆様今一度思い出して頂けないですか？

良い事ばかりではなかったと思います。

つらい事ばかりだったかもしれません。

自分を育ててくれた学校、先輩・後輩を思い出して、再度、歯科医師としての大きな夢を友と一緒に語った日々を思い出してみても如何ですか？

誰かと、何かをバトンタッチするまでには、少々時間はあるでしょう。

（茨城県同窓会 会長 中山 清）

同窓生のひろば



福井 昌志

(歯学部14期生)

去る11月3日(金)から11月5日(日)まで奥羽大学歯学部同窓会青森県支部の会員およびその家族の8名は支部会としては初めての海外旅行に行ってきました。

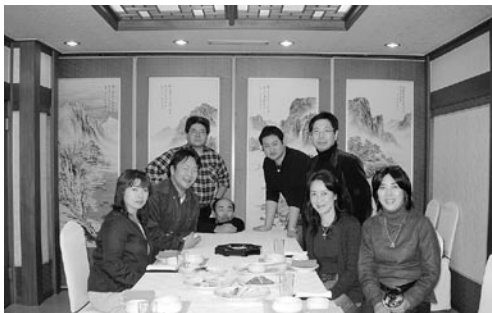
行き先は韓国。そしてツアー名は「冬のソナタロケ地めぐり」。旅行中は、朝方寒かったり、雨が降ったりしましたが、降ったのは夜とかバスに乗っているときに観光には影響なく、天候には恵まれました。観光場所は、バスの中で“冬ソナ”のDVDを復習(一部の人は予習)しながら巡り歩きました。

ナミ島は、チュンサンとユジンの自転車シーン、ベンチに座って作った雪だるまのシーン、高校の仲間がチュンサンの葬式をするシーン、などが撮影された場所でした。また高校の塀を乗り越える場所は春川の町の中にある高校で意外だったりとか、酔っ払いにユジンが絡まれチュンサンが助けた場所は、繁華街の一角だったりして、物語の雰囲気とはちょっと違ったイメージだったりしました。その場所その場所で主人公のいた場所に立ち、“キムチ〜”と笑顔で撮影していました。食事は韓国料理三昧!でした。

初日は、焼肉、ケジャン、チヂミ、お酒のマッコルリ。2日目は昼にタッカルビ、麵、

韓国風チャーハン、夜は韓定食。3日目は、朝早くキムチ店で定食。お肉は甘みがありおいしく、キムチの味も辛さのなかにいろいろな変化があり、お酒はJINROでさえ日本のものと味が違い甘く飲みやすく、どれも好評でした。(掲載の写真は、韓定食を食べた「高麗亭」で撮りました。)また、観光地巡りのほかにもロッテワールドなど2箇所の免税店に行き、夜はショーを見て盛り上がり。次の日の夜はカジノで少し儲けたり、損したり。

本当に「あっ」という間の楽しい3日間でした。





君島 由紀
(英文科3期生)

木立をわたる風が涼しさを帯び、近づく秋の気配が郷愁を運んでくる季節…ふと懐かしく思い出される風景があります。

それは、奥羽大学という学舎で、文筆家を夢見ていた自分の姿です。あの頃の私は、友だちと私設同人誌を作り、作家の真似事をして日々を過ごしていました。

時が経つのは早いもので、ふと気づけば、学舎を後にしてから約10年の月日が過ぎようとしています。

これまで私は、様々な事情で転職を繰り返してきましたが、選ぶのは何故か「教育」という分野で、今は郡山市内の進学塾で講師として、子供たちの成長を手助けできる喜びを感じながら働いています。

私は、自分の生徒達には「人生の表現者」であって欲しい、知識だけを身につけるのではなく、内面を表現できる大人になって欲しいと考えています。

そして今年の春、そんな思いを込めた詩集を自費出版しました（平成18年2月25日(土)発行）。

この詩集『幻奏』（新風舎）は、学生時代から今まで書き溜めてきた作品を集めたものです。内容は、現在の自分と過去の自分との対話という構成になっております。

ご興味のある方は、お手に取っていただければ幸いです。

私は、人生の表現者であれたら良い —誰かの支えになれたらなお幸せだ— と考え、今後も機会があれば、新たな表現に挑戦していきたいと考えております。

人事

<任用>

玉井利代子 講師 歯学部 10月1日付
山下 俊之 助教授 薬学部 *

<昇格>

鳴原 真澄 経理係長 財務部 10月1日付
国分 優子 医事課長 病院事務部 *
橋本 稔 医事係長 * *

<異動>

影山 利夫 庶務課長 病院事務部 10月1日付
渡部 梓 学事部(薬学部担当) *

<退職>

阿部 行洋 助手 歯学部 10月31日付

慶弔

<訃報>

謹んでお悔やみ申し上げます。

- 病院事務部 中葉 利男
義母 影山 ユキ 殿 (81歳) 10月12日
- 歯科技工士 安田 睦
祖父 七海 良長 殿 (79歳) 10月23日
- 歯学部 五月女 稔
実父 五月女 茂 殿 (74歳) 10月24日
- 文学部 早坂 高則
義母 箱崎ゆき子 殿 (95歳) 10月25日
- 総務部 矢部 政幸
実母 矢部 ミサ 殿 (92歳) 11月9日

行事予定

平成19年

1 月	2 月	3 月
6(土) ㊦冬季休業終了	1(木) ㊦公務員模試 (1・2年)	2(金) ㊦一般二期入学試験
8(月) ㊦冬季休業終了 (5年) ㊦冬季休業終了	5(月) ㊦一般一期入学試験	3(土) ㊦一般二期入学試験 合格発表
9(火) ㊦後期授業再開 (5年) ㊦後期授業再開	7(水) ㊦一般一期入学試験 合格発表	5(月)～7(水) ㊦登院前試験 (4年)
9(火)～12(金) ㊦卒業論文提出期間	8(木) ㊦一般一期入学試験 合格発表	6(火) ㊦一般二期入学試験
9(火)～2/1(木) ㊦一般一期入学試験 出願期間	10(土)・11(日) ㊦歯科医師国家試験	7(水) ㊦㊦記念植樹式、 卒業式リハーサル
9(火)～2/5(月) ㊦一般一期入学試験 出願期間	13(火)～28(水) ㊦一般二期入学試験 出願期間	8(木) ㊦一般二期入学試験 合格発表
10(水) ㊦冬季休業終了 (1～4年)	19(月)～3/2(金) ㊦一般二期入学試験 出願期間	9(金) ㊦㊦卒業証書・学位 記授与式、㊦教育職員 免許状・司書資格証明書授与
11(木) ㊦後期授業再開 (1～4年)	24(土) ㊦大学院Ⅲ期入学 試験	㊦㊦父兄会総会、 ㊦共済基金委員会
12(金) ㊦教職免許状等申請 手続きガイダンス	28(水) ㊦卒業予定者発表	10(土) ㊦臨床実習終了 (5年)
15(月)・16(火) ㊦第2回卒業試験 (6年)		11(日)～25(日) ㊦春季休業(5年)
17(水) ㊦月曜日の振替授 業、後期授業終了		23(金) ㊦進級予定者発表 (1～5年) ㊦進級予定者発表
19(金) ㊦卒業予定者発表 (6年)		26(月) ㊦臨床実習再開 (5年)
22(月)～31(水) ㊦後期定期試験		
26(金) ㊦後期授業終了 (1～4年)		
29(月)～2/7(水) ㊦後期定期試験 (1～4年)		

<委員会からのお知らせ>

本学報は、同窓生と在学生の保護者あてに送付しております。転居・住居表示の変更の場合は下記までご連絡くださるようお願いいたします。その際、お手数でも宛名シールの番号をご記入いただければ幸いです。なお、皆様からのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

連絡先/奥羽大学 総務部 広報担当

奥羽大学報110号(通算No.235)平成18年11月15日発行

発行 奥羽大学
学報編集委員会
委員長 清水秋雄

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

平成18年度 歯学部後期定期試験日程

歯 学 部

1～4 年

学年	試験時間	期 日 お よ び 科 目						
		1/29(月)	1/30(火)	1/31(水)	2/1(木)	2/2(金)	2/5(月)	2/6(火)
1 年	9:30～10:30	法 学	基礎物理学	数 学	英 語 I	美 術	薬 学 部 入 学 試 験	基礎生物学
	11:00～12:00	日本語表現論	情報科学	ドイツ語I	基礎化学	心 理 学		統計学
		文 学						生物学
13:00～14:00	/	英 会 話	/	/	/	/		
2 年	13:00～14:00	英 語 II	口腔生理学	口腔組織学	解 剖 学	社 会 学		/
	14:30～15:30	経 済 学	倫 理 学	物 理 学	ドイツ語II	国際関係論		化 学
3 年	9:30～10:30	歯科放射線学	口腔外科学I	有床義歯学I	口腔病理学	口腔衛生学	歯科薬理学	
	11:00～12:00	口腔生化学	口腔細菌学	外 科 学	冠橋義歯学I	保存修復学I	歯科理工学	
4 年	13:00～14:00	障害者歯科学	歯科麻酔学	口腔外科学IV	歯科矯正学	歯内療法学	小児歯科学	
	14:30～15:30	高齢者歯科学	/	/	歯 周 病 学	/	/	

平成18年度 文学部後期定期試験日程

文学部

日時	1		2		3		4	
	9:30~10:30		11:00~12:00		13:00~14:00		14:30~15:30	
	対象	試験科目	対象	試験科目	対象	試験科目	対象	試験科目
12/19 (火)	3・4E 3J 3・4全	英米文化論Ⅱ 日本語学演習Ⅱ マス・メディア論Ⅰ	3・4E 4J 3・4J	英語学講義Ⅱ 卒業研究 漢文学講義Ⅲ	4同 3・4F	資料組織演習 フランス文学演習Ⅰ		
12/20 (水)	3・4E	英米文学講義Ⅱ	4E 4E	卒業演習 卒業演習	3・4E 3・4J 3・4J	英語史 言語学概論 日本文学演習Ⅰ		
12/21 (木)	3E	英作文	3・4J	漢文学演習Ⅱ	3・4E 3・4全	英米文学演習Ⅲ 比較文化論Ⅱ	3・4E 3・4全	英米文学講義Ⅲ 比較文化論Ⅰ (フランス語圏)
12/22 (金)			3・4F 3・4全	現代フランス文学購読Ⅰ 比較文化論Ⅰ (英語圏)			3・4E	英米文学演習Ⅱ
12/25 (月)	3・4E 3J	アメリカ文学史 日本語学購読Ⅱ	3・4E 4F 3・4EF	時事英語Ⅰ フランス語作文Ⅲ 日本語概説	3・4E 3・4J 3J 3・4EF 3・4EF	時事英語Ⅱ 漢文学演習Ⅰ 中国語Ⅲ ラテン語 西洋史概説	4J 3・4全	中国語Ⅳ 西洋古典文学概説

平成18年度 薬学部後期定期試験日程

薬学部

時 限		1	2	3	4
		9:30～10:30	11:00～12:00	13:00～14:00	14:30～15:30
日 時		試験科目	試験科目	試験科目	試験科目
1/22 (月)	1年生		機能形態学I(後)	臨床の実際(後) 医療と哲学(後)	
	2年生	病原微生物学(後)			
1/23 (火)	1年生		生 化 学 I (後)		
1/24 (水)	1年生		薬品分析化学I(後)		
	2年生	英 語 II (後)			
1/25 (木)			有 機 化 学 II (後)	現代社会論(後)	
1/26 (金)	1年生		英 語 I (後)		
	2年生	生 薬 学 (後)			
1/27 (土)	1年生				
1/29 (月)	1年生		物 理 化 学 I (後)		
	2年生	有機合成化学(後)			
1/30 (火)	1年生		英 語 B (後)		
	2年生	機 器 分 析 学 (後)			
1/31 (水)	1年生			医 療 と 法 (後)	